原爆投下80年
日常とその破壊

平山郁夫が描いた日常と写真家土田ヒロミの「ヒロシマ・コレクション」

「ヒロシマ・コレクション」は、土田ヒロミが広島平和記念資料館におさまる被爆資料を1980年代初めから現在まで撮り続けている作品群です。

上：土田ヒロミ〈ヒロシマ・コレクション〉《懐中時計》1982年
一般財団法人日本カメラ財団所蔵／原資料は広島平和記念資料館所蔵
下：家路（大下図） 平山郁夫 1953年

令和7年

7/3［木］▶9/17［水］会期中無休

開館時間 ｜午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入 館 料 ｜一　般 1,000円　大高生 500円　中小生 300円
（10名以上の団体は一般：900円、大高生：400円、中小生：200円）

主　　催 ｜公益財団法人平山郁夫美術館

後　　援 ｜広島県、広島県教育委員会、公益財団法人ひろしま文化振興財団
尾道市、尾道市教育委員会、中国新聞備後本社、尾道エフエム放送
エフエムふくやま

協　　力 ｜一般財団法人日本カメラ財団、Office Nirvana 土田ヒロミ

平山郁夫美術館
Hirayama Ikuo Museum of Art
〒722-2413 広島県尾道市瀬戸田町沢200-2　TEL. 0845-27-3800
https://hirayama-museum.or.jp/

原爆投下80年 日常とその破壊

平山郁夫が描いた日常と写真家土田ヒロミの「ヒロシマ・コレクション」

三女性（室内の三人） 平山郁夫 1953年

土田ヒロミ〈ヒロシマ・コレクション〉《看護師の制服》2018年
一般財団法人日本カメラ財団所蔵／原資料は広島平和記念資料館所蔵

原資料：看護婦の制服
寄贈：1999年9月11日／寄贈者：大井松恵（本人）／980×1020mm
基町の広島第二陸軍病院（爆心地から1,050m）で看護師をしていた大井松恵さん（当時26歳）は、勤務中に被爆。

漁夫 平山郁夫 1958年

広島原爆投下80年の節目となるこの夏に、「日常」を視点に据え、日本画家平山郁夫と写真家土田ヒロミの作品から平和について考えます。土田ヒロミ「ヒロシマ・コレクション」は、広島平和記念資料館におさめられている被爆遺品などを撮影した、1980年代初めから現在まで継続するシリーズで、本展ではそのうちの43点を展覧します。

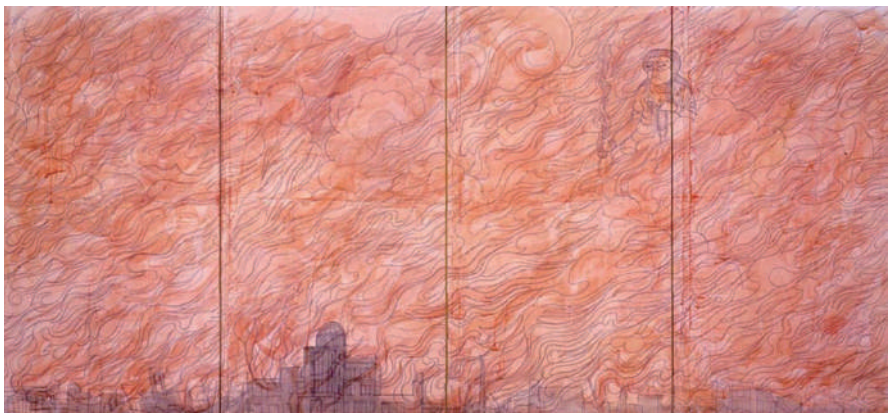
一方、若き平山郁夫が描いた日常は身近な人々や故郷の何気ない時間です。ただ、画家は旧来の手法で日常を描くスタイルの破壊、ある種の「日常の破壊」によって自らのスタイルを確立したいと試行錯誤し、《広島生変図》などの作品を生み出すに至ります。本展ではその試行錯誤も「日常とその破壊」の一要素として紹介し、平和を願って描かれた平山作品を併せて供覧します。

土田 ヒロミ Hiromi Tsuchida

1939年	福井県生まれ
1963年	福井大学工学部卒　ポーラ化粧品本舗入社、研究所勤務
1966年	東京綜合写真専門学校卒業
1971年	ポーラ化粧品本舗退社、以後フリーランス
1971-96年	東京綜合写真専門学校教職
2000-2013年	大阪芸術大学教授
現 在	東京在住

『原爆の子』（長田新編、岩波書店）に作文を寄せた被爆体験者の33年後のポートレイト「ヒロシマ1945-1979」（1979年）、爆心地の被爆の痕跡を残す風景の定点撮影「ヒロシマ・モニュメント」（1979-）、広島平和記念資料館におさめられている遺品などを撮影した「ヒロシマ・コレクション」（1981-）の3部で構成される「ヒロシマ」シリーズは代表作のひとつ。

土田ヒロミ〈ヒロシマ・コレクション〉《弁当箱》1982年
一般財団法人日本カメラ財団所蔵／原資料は広島平和記念資料館所蔵



広島生変図（大下図） 平山郁夫 1979年

—土田 ヒロミ ギャラリートーク—

〈日時〉令和7年7月13日（日）
14：00～15：00
〈会場〉平山郁夫美術館第二展示室

平山郁夫美術館
Hirayama Ikuo Museum of Art

公式HP　facebook　instagram　X